

高齢者に関する意識調査 日本とタイ王国における比較

研究代表者

グライナー智恵子 神戸大学大学院

研究分担者

岡本菜穂子 上智大学

大石朋子 元神奈川県立保健福祉大学

坂元眞由美 園田学園女子大学

Thailand

Porntip Malathum Mahidol University

Supreeda Monkong Mahidol University

Nuchanad Jeangsawang Mahidol University

科学研究費補助金 基盤研究 (B)

海外学術調査 No. 24406037

日本の高齢化率は2015年現在26%であるが、今後も上昇を続け、2060年には約40%に達すると予測されている。中でも後期高齢者の占める割合が増大することから、今後の超高齢化社会を見据えた持続可能な医療・福祉制度の確立は喫緊の課題となっている。

タイ王国は、日本が経験した以上の速さで高齢化が進んでいくと予測されている。日本の高齢化率が7%から14%に達した倍加年数は24年（1970-1994年）であるのに対し、タイ王国は22年（2001-2023年）と予測されており、日本の辿ってきた道を更に速いスピードで今現在進んでいる状況にある。タイ王国は現在、国家的戦略として福祉施設サービスの提供や高齢者ケアに関わる人材開発などが実施されてきているが、その充足率は低い。

高齢者支援を検討する上で、若年層が高齢者をどのように捉えているかは、将来の高齢者ケアと支援の質へ直接的に影響すると考えられる。厚生労働省の「認知症施策推進総合戦略」（2015）では、学校教育等で認知症の人を含む高齢者への理解推進が対策として明示されていることから、将来高齢者ケアを担っていく若年層が高齢者に対してどのような価値観を持っているか、どのような教育や啓蒙活動が必要であるかを検討することは重要である。

本調査は、高齢者ケアの質保証を促進するために、今後高齢者ケアの担い手となってい

く大学生を対象に高齢者に対する意識とその影響要因を調査し、若年層に対する高齢者理解推進への示唆を得ることを目的としている。今回、日本とタイの看護大学生に実施した調査の主な概要をホームページで報告する。

※本研究は、科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 No. 24406037）の助成を受けて実施した。

本研究は、自記式質問紙を用いた横断的探索的記述研究である。研究対象者は、便宜的に抽出した日本とタイ王国の看護大学 1 回生（日本 157 人、タイ王国 232 人）と 4 回生（日本 189 人、タイ王国 183 人）、合計 761 人で、調査は 2015 年に実施した。なお、研究は各調査実施大学が設置する研究倫理審査委員会の承認を得てから実施した。

【調査結果】

1. 対象者属性

対象者数は、日本は 346 人、タイ王国は 415 人であった。性別は、女性の割合は日本が 341 人（98.6%）、タイ王国が 393 人（94.7%）となっており、学年別にみても二国間で大きな差は見られなかった。学年別の対象者数は、看護 1 回生は日本が 157 人（45.4%）、タイ王国が 232 人（55.9%）、看護 4 回生は日本が 189 人（54.6%）、タイ王国が 183 人（44.1%）となっている。

2. 高齢者への介護に対する考え

介護は社会がサポートすべきかきいたところ、図 1 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は 3.2%と 1 割に満たず、一方「そう思う」と「非常にそう思う」を合わせた割合は 96.5%と 9 割を超えた。

タイでは、「非常にそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は 0.2%、「そう思う」と「非常にそう思う」を合わせた割合は 99.3%であった。日本、タイの両国で、介護に対する社会のサポートの必要性は高く、特にタイは日本に比べて強く社会のサポートを必要としていると考えられた。

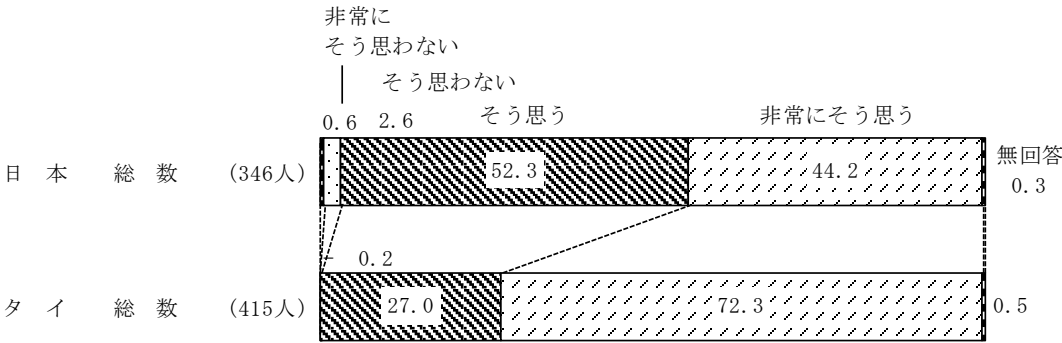


図 1 介護は社会がサポートすべきである

介護は家族で行うべきかきいたところ、図 2 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」という否定的な項目を合わせた割合は 48.6%、「そう思う」と「非常にそう思う」という肯定的な項目を合わせた割合は 50.9%と拮抗していた。

タイでは、「非常にそう思わない」と「そう思わない」という否定的な項目を合わせた割合は 1.0%と 1 割に満たず、「そう思う」と「非常にそう思う」という肯定的な項目を合わせた割合は 98.8%と 9 割を超える結果となった。日本と比較して、タイでは高齢者介護は家族で行うべきだという意見が非常に高い結果となった。

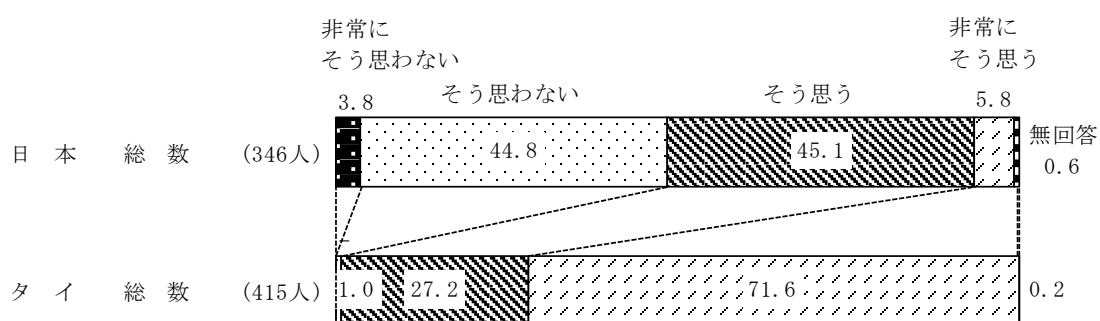


図 2 介護は家族で行うべきである

介護にはできるだけ社会資源を使うべきかきいたところ、図 3 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」という否定的な項目を合わせた割合は 13.3%、「そう思う」と「非常にそう思う」という肯定的な項目を合わせた割合は 86.4%を示し、肯定的な意見を持つ割合が高い結果となった。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 18.3%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 81.4%を示し、日本とタイで大きな差は見られない結果となり、どちらも高齢者介護に社会資源を使うべきだという意見が多かった。

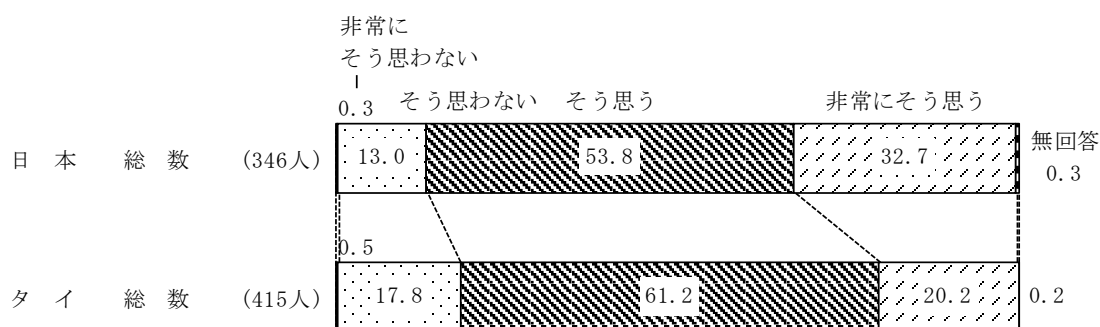


図 3 できるだけ社会資源を使うべきである

介護する者は自分自身の生活を優先すべきかきいたところ、図 4 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 20.2%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 79.5%を示し、肯定的な意見を持つ割合が高い結果となった。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 15.9%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 83.9%を示し、肯定的な意見を持つ割合が高い結果となった。日本とタイで大きな差は見られず、両者ともに介護者の生活を優先すべきであるという意見が多い結果となった。

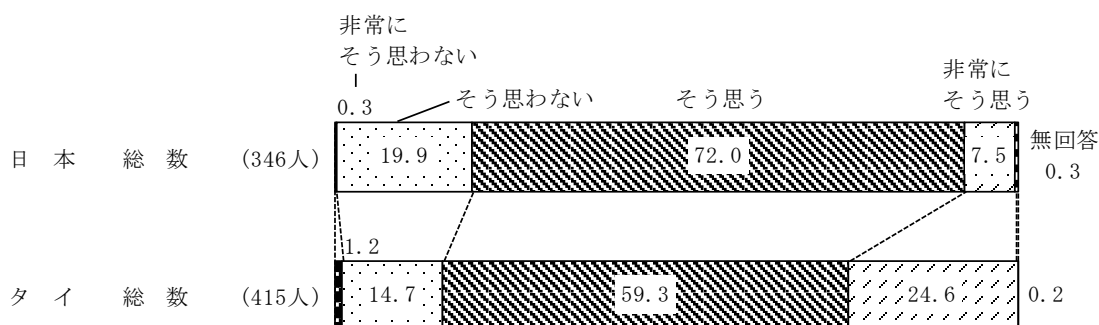


図 4 介護する者は自分自身の生活を優先すべきである

自宅で介護をするべきかきいたところ、図 5 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 68.2%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 30.9%を示し、否定的な意見を持つ割合が高い結果となった。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 4.1%と 1 割に満たず、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 95.9%と 9 割を超えた。日本では自宅介護に否定的な意見が多かったが、タイでは自宅介護に肯定的な意見が 9 割以上であった。

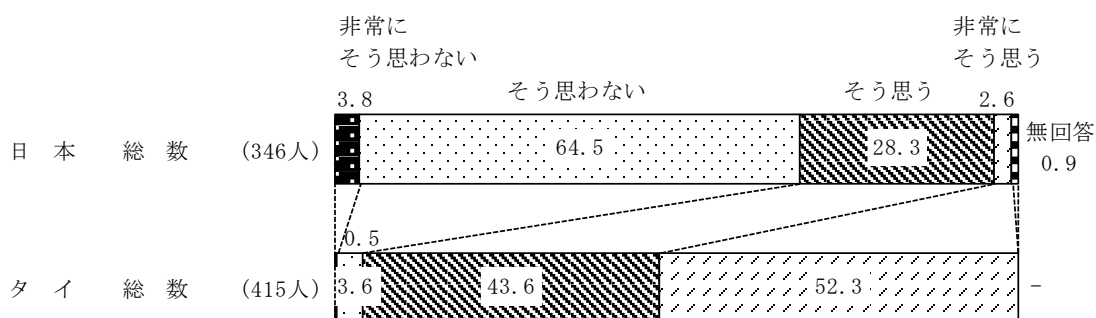


図 5 自宅で介護をするべきである

高齢者への介護に対する考え上記 5 項目を学年別に比較した結果では、「できるだけ社会資源を使うべきである」という項目のみ日本の 4 回生が 1 回生より肯定的に回答していた。タイの 1 回生、4 回生と比較しても日本の 4 回生がより肯定的な回答をしていた。それ以外の 4 項目では学年別に分類しても全体の結果とほぼ同様であった。

3. 大切だと思う価値観

大切だと思うことを 4 項目から 2 項目選択してもらったところ、図 6 に示すように、日本では「助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する」を選択した者の割合が 69.1%、「親孝行、親に対する愛情と尊敬」を選択した者の割合が 68.8%と高く、他の項目は「個人の自由を尊重すること」(32.4%)、「個人の権利を尊重すること」(28.9%) となった。

タイでは「親孝行、親に対する愛情と尊敬」を選択した者の割合が 96.4%と最も高く、他の項目は「助けてくれた人に感謝し、援助する」(56.1%)、「個人の権利を尊重すること」(38.3%)、「個人の自由を尊重すること」(8.7%) となった。

「親孝行、親に対する愛情と尊敬」と「個人の権利を尊重すること」を選択した者の割合はタイの方が高く、「助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する」、「個人の自由を尊重すること」を選択した者の割合は日本の方が高い結果となった。

(複数回答)

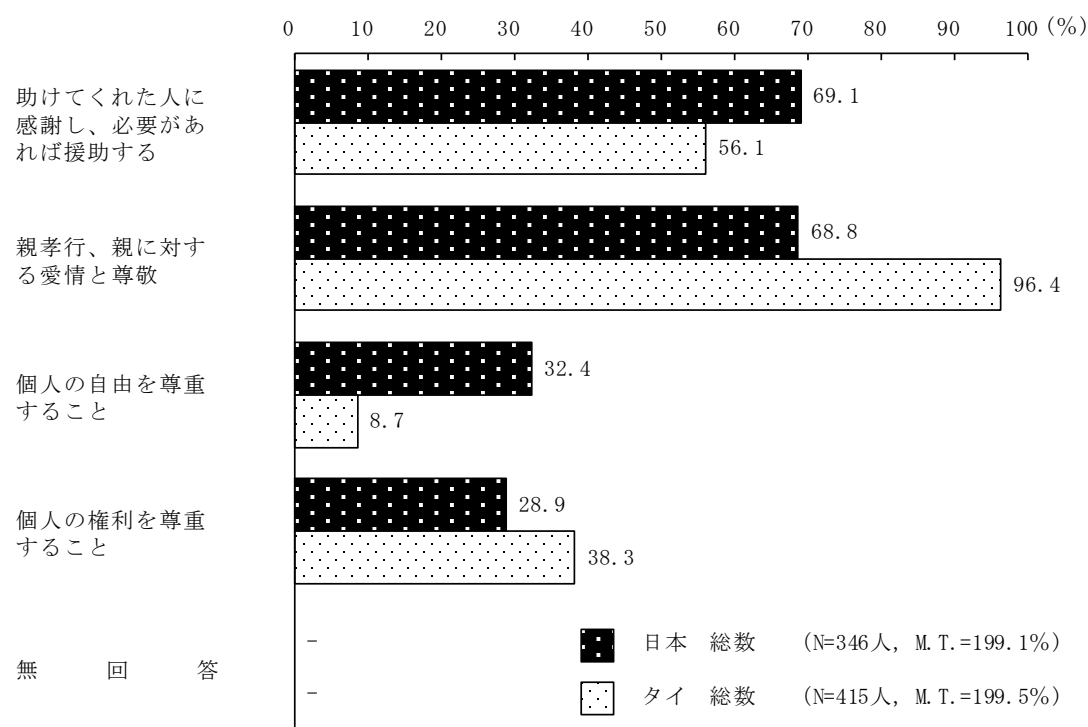


図 6 大切だと思う価値観

注：「M.T.」は回答数の合計を回答者数（N）で割った比率（Multiple Total の略）である。回答者が複数回答をすることができる質問では、通常その値は 100%を超える。

年取った親は誰が見るべきかきいたところ、図 7 に示すように、日本では「子供が面倒をみるべき」と答えた者の割合が 69.1%、「親が自分でなんとかするべき」と答えた者の割合が 3.5%、「社会がなんとかするべき」と答えた者の割合が 25.7%を示した。

タイでは「子供が面倒をみるべき」と答えた者の割合が 93.0%、「親が自分でなんとかするべき」と答えた者の割合が 5.3%、「社会がなんとかするべき」と答えた者の割合が 1.7%を示した。

日本では「子供が面倒をみるべき」と答えた者の割合が 69.1%であったのに対して、タイでは 9 割以上を占めていた。

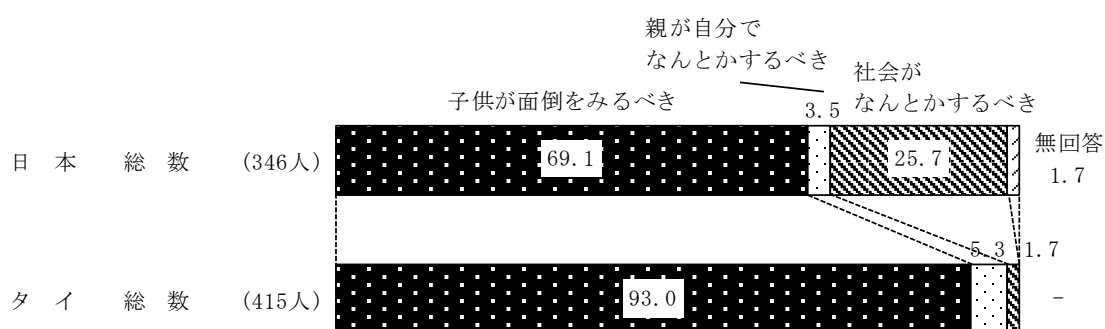


図 7 親の介護について

「先祖を尊ぶべき」という価値観についてきいたところ、図 8 に示すように、日本では「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 74.0%、「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 26.0%を示し、肯定的な項目の割合が高い結果となった。

タイでは「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 99.3%と 9 割を超えており、「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 0.7%と、ほとんどが肯定的な回答であった。また、タイの方が「非常にそう思う」と回答した者が多かった（日本：19.7%、タイ：73.3%）。

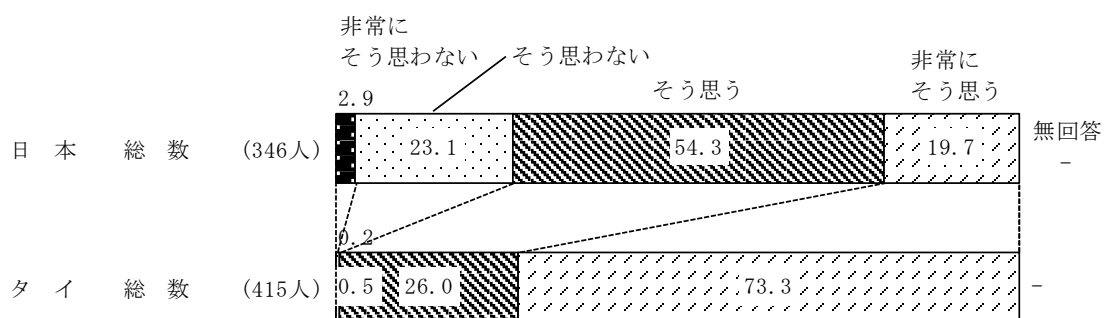


図 8 先祖を尊ぶべき

「妻は夫に従う」という価値観についてきいたところ、図9に示すように、日本では「非常にそう思わない」と答えた者の割合が45.1%、「そう思わない」と答えた者の割合が50.6%、「そう思う」と答えた者の割合が4.0%を示し、「非常にそう思う」と答えた者はいなかった。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は70.6%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は29.4%を示し、日本で肯定的な価値観を示した者は1割にも満たなかったのに対し、タイでは3割程が肯定的な回答を示した。さらにタイに比べて日本では「非常にそう思わない」と答える者の割合が高かった。

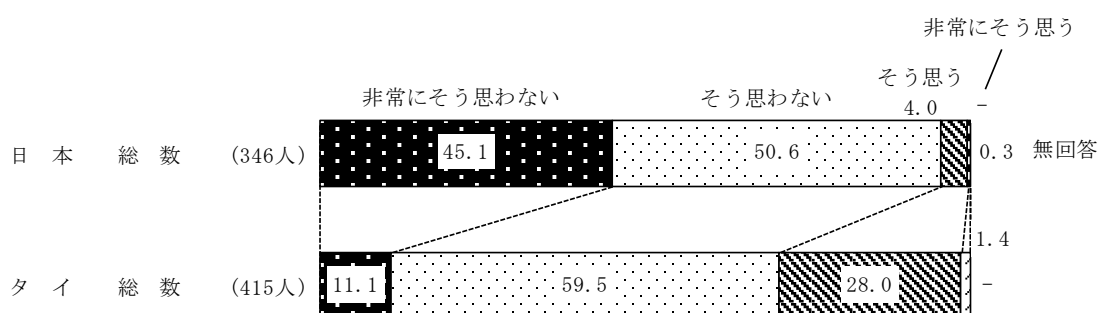


図9 妻は夫に従う

「親が反対する結婚はしない」という価値観についてきいたところ、図10に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は73.1%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は26.9%を示した。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は69.4%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は30.6%を示し、日本とタイで大きな差は見られなかった。

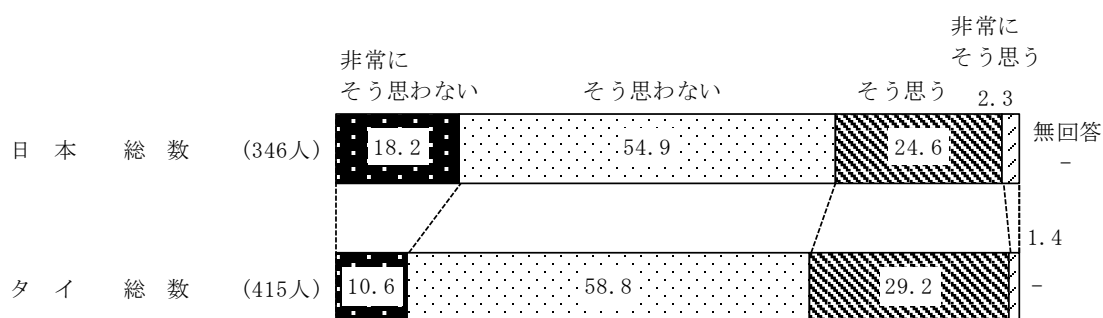


図10 親が反対する結婚はしない

「年上の人の意見にしたがう」という価値観についてきいたところ、図 11 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 58.1%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 41.6%を示し拮抗していた。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 26.3%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 73.7%を示した。

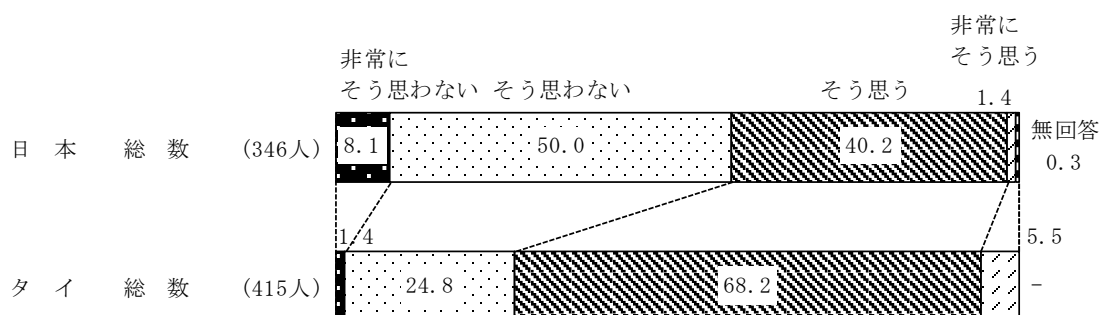


図 11 年上の人の意見に従う

「家系を続かせるため息子は必要だ」という価値観についてきいたところ、図 12 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 83.5%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 15.6%を示した。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 79.3%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 20.7%を示し、日本とタイで大きな差は見られなかった。

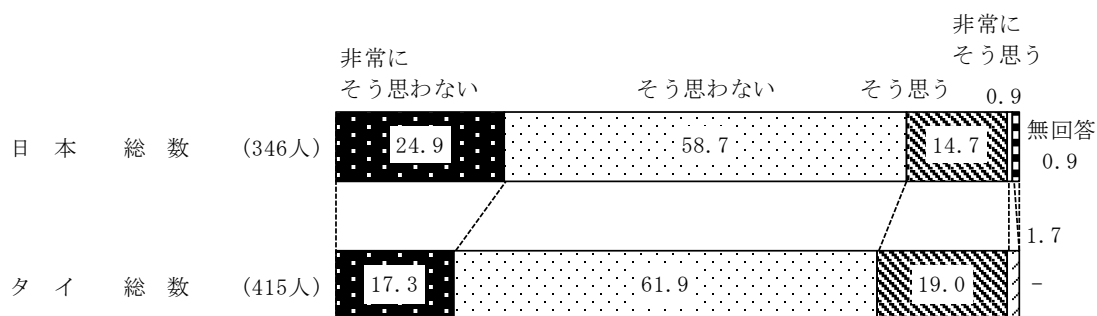


図 12 家計を続かせるため息子は必要だ

「男性と女性は、それぞれ社会において異なる役割を担うべきである」という価値観についてきいたところ、図 13 に示すように、日本では「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 76.3%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 23.1%を示した。

タイでは「非常にそう思わない」と「そう思わない」の否定的な項目を合わせた割合は 53.7%、「そう思う」と「非常にそう思う」の肯定的な項目を合わせた割合は 46.3%と拮抗しているが、否定的な項目を答えた人の割合の方がやや高くなっている。否定的な項目を答えた者の割合は日本の方が高かった。

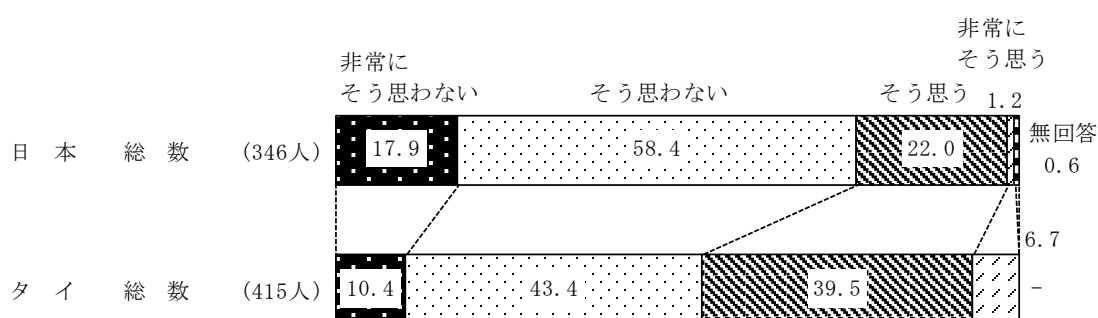


図 13 男性と女性は、それぞれ社会において異なる役割を担うべきである

大切だと思う価値観 8 項目を学年別に比較した結果、日本の看護学生では学年による差はなかった。一方、タイでは、「妻は夫に従う」「親が反対する結婚はしない」「年上の人の意見に従う」について 1 回生よりも 4 回生で否定的に回答する割合が高かった。

4. 高齢者に対する認識

高齢者に対する認識は Kogan スケール日本語版（否定的項目 17、肯定的項目 17、合計 34）を用いて比較した。Kogan スケールは、各項目非常にそう思わない 1 点、～非常にそう思う 6 点で点数化し、点数が高いほど、否定的（否定的項目）又は肯定的（肯定的項目）であることを示している。

否定的項目においては、図 14 に示すように、日本の平均点は 44.6 点、タイでは 55.1 点とタイの方が高い結果となった。

肯定的項目においては、日本の平均点は 57.8 点、タイでは 70.9 点とタイの方が高い値を示した。また日本とタイのいずれも、否定的項目に比べ肯定的項目の平均点が高かった。

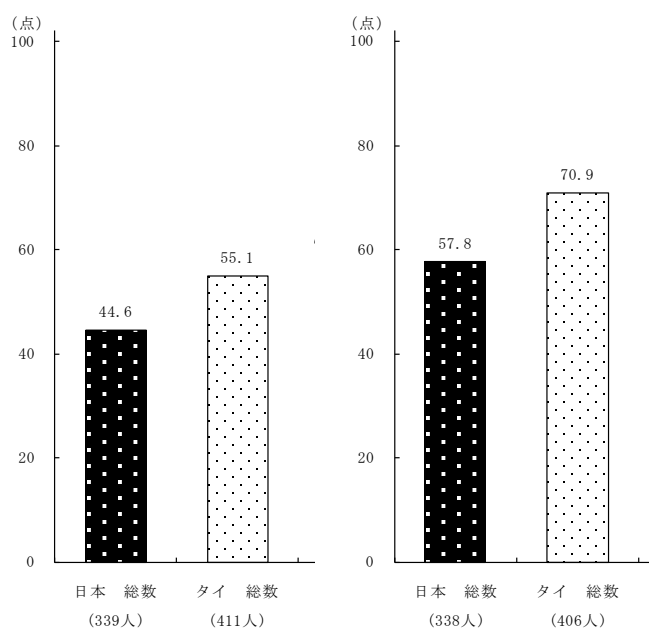


図 14 否定的項目（左）と肯定的項目（右）

注) 否定的得点が高いほど高齢者に対し否定的であることを示し、肯定的得点が高いほど高齢者に対し肯定的であることを示している。

最後に、否定的項目、肯定的項目の点数を全て足し上げ平均点を算出した。否定的項目 17 問は回答を反転し点数を足し上げた。全体の平均点は日本では 132.2 点、タイでは 134.7 点とタイの方がやや高くなっており、いずれも半分以上となった。更に、学年別にみると、日本の看護 1 回生で 131.9 点、タイの看護 1 回生で 131.7 点、日本の看護 4 回生で 132.4 点、タイの看護 4 回生で 138.3 点を示した。日本では大きな差は見られなかったが、タイでは看護 1 回生に比べて看護 4 回生で高い結果となった（図 15）。

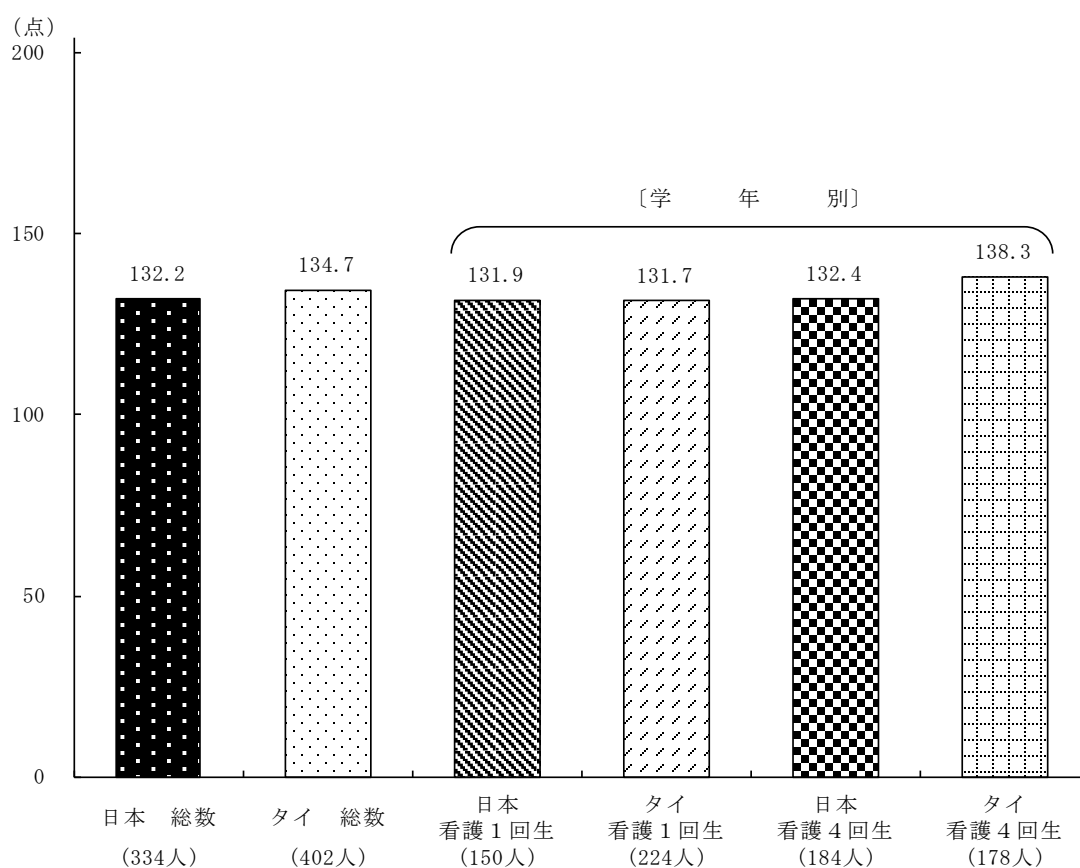


図 15 総合平均点

注) 得点が高いほど高齢者に対し肯定的であることを示している。

5. まとめ

本研究により、日本とタイ王国では高齢者への意識が異なることが明らかとなった。特に、タイ王国では、介護は社会が担うべきと考える一方で、家族が担うべきとも回答しているが、日本では社会が担うべきという傾向が一貫していた。この結果の興味深い点は、両国の高齢者への肯定的な態度、高齢者を敬う態度が共通して高い一方で、介護への考え方が異なることである。日本は2000年から介護保険制度がスタートしており、個人の自由を尊重し、高齢者を社会が支える認識が定着してきていることが背景にあるのかもしれない。今後2国間の相違とその要因について更に検証を進めていきたい。